

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570807859		
法人名	有限会社 ふあいん		
事業所名	グループホームひかり(1号館)		
所在地	秋田県大仙市藤木字東八圭21-1		
自己評価作成日	令和2年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切に、地域行事や活動に積極的に参加し、顔の見える関係づくりや交流により、地域の介護相談の駆け込み寺としての役割に応えたいと考えています。地域と共助しながら、利用者と職員が、また利用者同士が家族のような馴染みの関係を築き、一人ひとりの体調やペースに合わせて、楽しく、和やかに暮らし続けられるよう努めております。また、保持している能力を活かす工夫を常に考え支援しています。個々のニーズを察し、ご家族の思いも尊重しながら、共に支える関係性を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

研修報告様式に、個々の気づきが詳細に記載され、施設長と管理者がチェックしており、フィードバック効果の高さが推測される。ホーム裏の広々とした畑では、季節毎多様な野菜が栽培され、利用者が下ごしらえした野菜が食卓に上る。「いかに先々のレベル低下を防止するかが大事で、気分転換や生きがい対策が重要」と管理者は語る。内服薬の副作用の悪循環を防げるよう、担当医と緊密に連絡調整する重要性を認識し、実践している。地域はホームの存在を理解し、何の違和感もなく地域に溶け込んでおり、17年間の積み重ねの成果である。穏やかに一日が流れ、スタッフによる声掛けのトーンもまるで気づかない程である。脱少子化ウェブを巻き起こす行動県民会議「ベビーウェブ・アクション」の会長(県知事)表彰を受賞しており、働きやすい環境に率先して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が理念を把握し(ホールに掲載)、それに基づいたサービスを支援を実践している。	グループホームの必要性を認識し、その強い使命感から17年前にホームを立ち上げたが、その開設当初に作成された分かりやすく簡潔な理念を現在も引き継ぎ、採用している。講演依頼で施設長が開設時の経験談を話す機会が多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1町内会員として会費の集金や町内行事の参加、準備等も参加し、地域の方々と交流を図っている。学校行事(運動会、文化祭など)も毎年参加している。	以前は町内会費の集金に利用者とともに各家々を訪問した経緯がある。中学生の体験学習や小学生のふれあい体験学習、小中学校の各種行事に招待されることも多く、神社清掃等の地域活動にも参加している。地域はホームの存在を理解し、何の違和感もなく地域に溶け込んでおり、正に17年間の積み重ねの成果と云える。小学校の「みんなの登校日」には利用者も一緒に授業を受けるとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会では介護予防研修、認知症予防講座などを開催している。認知症カフェを主催し、地域の方の認知症の理解度アップに貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や研修、利用状況などの報告を行い、またテーマを決め話し合い、委員や利用者家族等からの意見や質問を参考にサービスの向上に努めている。	発言者が確認出来るよう、議事録の様式を改訂している。出来るだけ多くの家族に参加してもらえよう、家族代表は毎年交代している。行政からは、包括も含め、参加者を行政側でシフトを組んで毎年交代で参加しており、色々な意見をもらうよう努め、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者主催の研修会等に積極的に参加し、顔の見える関係を築き協力体制がとりやすくなるように努めている。	介護保険事務所主催の介護サービス事業所研修会に毎回欠かさず参加。施設長が大曲仙北地域密着型介護事業者連絡会の役員として「誰もが地域でその人らしく普通に暮らせる」地域社会の実現に寄与している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関しては委員会を設立し、研修や年2回の勉強会を通して「してはいけない行為」である事を理解している。身体拘束のない生活となるように取り組んでいる。玄関施錠は夜間帯のみ実施とし、日中は開放している。	「身体拘束廃止に関する指針」「身体拘束等の廃止マニュアル」「身体拘束ゼロ促進標準マニュアル」が作成され、3ヶ月に一度、身体拘束適正化及び虐待防止委員会が開催され、スタッフへの周知が図られている。法人内の各代表で構成された委員会と運営推進会議委員で構成され委員会が存在する。受講者個々が提出する内部研修の報告様式に、内容報告の他に個々の気づきが詳細に記載され、施設長と管理者がフィードバックして研修が実践に繋がるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設立し、研修や勉強会で全職員への理解を図っている。常に状態観察と気づきを併せて、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修やミーティングを通じて、高齢者の権利擁護、成年後見制度について学び、知識向上に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約内容、重要事項の説明の他、ケアに関する考え方や実際の取り組み等を出来る限り丁寧に分かり易く説明し、十分に理解納得したうえで記名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での意見、議事内容を回覧し、全スタッフへ確認と理解を図っている。また玄関に意見箱を設置したり、手紙や電話にて家族からの意見、要望を確認している。意見要望に対してはミーティングで話し合い反映させている。	家族は近隣の方が約8割で、コミュニケーションが円滑に図られている。一方で、遠方の家族の中には連絡様式に書ききれず、手紙で思いや意向を伝えてくれる事例が確認できた。転倒防止のため、玄関にすこの踏み台を設置したが、「気づかずにつまずく可能性があるため、入り口にその旨を表示した方がいい。」との家族からの要望に、早速注意喚起の表示を玄関入口に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りの際、スタッフから意見、提案をしてもらい運営に反映させている。また、日頃からスタッフとのコミュニケーションを通じて意見を聞き、職員誰もが言いやすい環境に努めている。	日常の業務の中でアイデアや提案が頻繁に出されており、毎月のカンファレンスでは意見が飛び交う程話しやすい環境が構築されている。脱少子化ウェブを巻き起こす行動県民会議「ベビーウェーブ・アクション」の会長(県知事)表彰を幾度となく受賞していることから、働きやすい環境に率先して取り組んでいる法人である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人から仕事への取り組み、考え等を聞き、職員にとって就業上の問題がないか等確認し、働きやすい職場となるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の経験やスキル状況にあった研修を受けられる機会を確保し、知識向上を図っている。また、本人や主任に技量や不安事項等を聞き取り、双方が支障なく育成できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡会や地域ケア従事者連絡協議会へ参加して、ネットワーク作りや相互訪問時に機会をもち情報交換を行っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始以降、コミュニケーションを特にこまめに図り、その方に合った声掛けを行うとともに、他の利用者様との関係作りを行い、初期の不安解消に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望にも沿えるように、家族にとって話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事作業等の際、労いや感謝の言葉がけを忘れず、一緒に楽しくゆっくりと過ごせるように配慮している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時、最近の生活状況、健康状態を伝え情報共有する事で、一緒に本人を支えていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の手配やかかりつけ医への受診等の支援を行い、関係継続に努めている。	車で15分かけ馴染みの美容院に定期的を送迎したり、散歩で近隣の馴染みの方と出会ったり、病院の待ち時間に知り合いと話し込んだりしている。余裕のある人員体制が、馴染みの人や場との関係継続を後押ししており、外出の機会が多い。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態に合わせ、レクリエーションや作業が他の利用者と共同で出来るようにコミュニケーション作りや仲介を図っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了された後も家族と連絡をとったり、立ち寄って頂いたり、転居先の施設での状況を聞き取りたり等、その後の相談にも応じられるように心掛けている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での本人の発する言葉や表情等を確認しながら、本人の希望を考えながら、それに応えられるように努めている。	自宅の花壇の管理が気になり入居に二の足を踏む方にホームの小さい花壇と一緒に活用する旨を伝え、一緒に花の種を購入し、今では花壇管理が本人の生きがいとなっている。縫物好きな方が雑巾縫いをし、その作品を学校へ連絡し、あえて小学生に本人が手渡すことで、生きがいにつなげている。中華料理屋を営んでいた利用者の指導のもと、餃子作りはホームの定番料理としてみんなで作っており、生きがいを持ちながら生活できるよう支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の情報入手や本人との会話の中から、生きがいや楽しみ等を見付けだせるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業や会話を通じ、1人1人の持っている能力や、心身の状態の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望や思いを受け止め、ケアカンファレンスを通じてスタッフ間で意見を出し合い介護計画を作成している。	ケアカンファレンスでは、「いかに先々のレベル低下を防止するかが大事な視点であり、気分転換や生きがい対策が重要」と管理者は語る。向精神薬の多用による副作用の悪循環を防げるよう、担当医と緊密に連絡調整する重要性を認識し、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を日誌や個別介護記録に記録、申し送りや連絡ノートを介して情報共有や実践、介護計画の見直しに活用できている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や運営推進会議を通じて情報交換を行い、地域との交流やその中で楽しむ事ができるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪診、訪看と年2回の歯科健診を行っており、体調不良の際はかかりつけ医やかかりつけ薬局と連携しながら適切な支援をしている。	以前は入居前のかかりつけ医からホームの協力医療機関への変更を提案していたが、現在は入居前のかかりつけ医を継続することが本人及び家族の安心感につながる場合が多く、受診の際も前もって電話で受け付けしてもらうことで、最短の待ち時間で診察が受けられるよう協力してくれる医療機関もある。また、薬の副作用や多用による悪循環を防げるよう主治医と情報交換を緊密に服薬の量を減らすなどを実践している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の定期訪問の際には、事前に情報を提供した上で、訪問時に相談や助言を受けている。薬剤師による定期訪問もあり、薬剤師からの助言も受けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者等が病院に行き、体調やADL等の情報提供を行っている。またスムーズに退院できるよう、家族、主治医とこまめに連携を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ターミナル方針について家族に説明を行い、医療機関、訪問看護、家族間の調整支援を行い、本人、家族の希望に沿う取り組みをしている。	開設当初は看取りを実施していたが、主治医の協力が困難な状況にある。最後までホームで対応して欲しいとの家族は少なく、他施設や医療機関への移行が殆どである。出来る限りホームで対応できる間は支援したいとの意向が確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な救命救急の講習を受講している。急変時に適切な対応がとれるように心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使用法を習得して事故発生に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時のマニュアルを理解していると共に、年2回の避難訓練を実施しうち1回は消防署立会いの下指導を受けている。	想定される災害等に速やかに対応できるよう、昨年10月に「避難訓練対応手順」を新たに作成している。近隣の運営推進会議委員が緊急時に駆けつけてくれる態勢にあり、近隣のボヤ騒ぎの際には真っ先に駆けつけてくれた。中学校との合同避難訓練では、実際に避難所である中学校体育館に避難し、玄関の受付で安否確認があり、中学生による簡単な炊き出しも実施された。避難所にはグループホーム専用のパーテーションが設置され、本格的な合同避難訓練であった。	更にスムーズに避難出来るよう、避難口を再点検するよう期待します。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払っている。一人ひとりの尊厳を守り、都度プライバシーにも配慮している。	利用者個々への対応が異なるため、特にトイレ誘導の際の言葉かけでは、周囲にトイレ誘導であることを悟られないよう細心の配慮をしている。穏やかに一日が流れており、スタッフによる声掛けのトーンにも配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にし、意思表示が十分でない場合にも表情や態度から希望を理解するように努め、一人一人の状況に配慮しながら対応している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに固執することなく、一人ひとりの心身の状態を優先し、その人のペースに合わせながら常に利用者視点で支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣や好みを知り、身繕いなどの本人の意向が十分反映できるように本人と話しの中から自己決定している。また清潔を心掛け季節や場に応じた衣類のアドバイスをしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け、食器拭きなど個々の能力に合わせて食事の準備をしていただいている。また季節毎の食材の話題や行事食やお菓子づくり等もおこなっている。	当日の調理当番スタッフが冷蔵庫の中と相談しながらメニューを考えている。ホームの目と鼻の先の土手からふきのとうや山菜を採り、皆で下ごしらえする様子が沢山の写真から確認できた。ばっけ味噌を作る表情はいかにも嬉しそう。産直から買った山菜等の下ごしらえを手伝ったり、干し柿を作ったり、ホームの畑からとれた野菜の下ごしらえを職員と一緒にしたりしている。今までやってきたことやできることを生き生きと行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行い、摂取量が少ない方には声掛けや介助し、一定量の栄養や水分が確保できるように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや義歯洗浄を行っている。年2回の歯科健診にて、口腔内のトラブル予防に努め、異常がみられた場合は早期受診している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用して、一人一人の排泄有無の確認を行っている。また時間での声掛け誘導にて、なるべく自分でトイレでの排泄が行える様に支援している。	他の施設でポータブルトイレを利用していたが入居後はトイレ排泄に切り換えた数事例を紹介していただいた。グループホームという家庭的な動線が排泄の自立に向けた支援には有効と考え、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多く摂取できる献立の工夫、水分摂取の促し、それに基づき性状を含め排便状況を確認し、自排便の取り組みをしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調にもよるが、なるべく希望に応じて入浴時間や順番を決めている。	「ゆっくりと入ってもらう」をコンセプトに、声掛けから誘導、脱衣、入浴、着衣の一連の流れを一人のスタッフがコミュニケーションを取りながら対応するように配慮している。以前、入浴拒否傾向のある方に対し、浴室入口に目立つ大きな温泉マークを付けたところ興味を示してくれ、自然に入浴する気持ちになっていただけた。無理強いしないで視覚効果等を取り入れたり、これまでの環境や習慣・好みに合わせて入浴支援を実践している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	しっかりと休息できるようにベッドの配置や照明等、室内環境作りに努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用の理解に努めている。飲み忘れや誤薬のないようにしている。薬剤師の訪問時に状態の変化や気づきをこまめに報告し、副作用による体調悪化にならないように努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業(食事準備、洗濯物たたみ、掃除等)を行うことで役割意識を持って頂いている。また、定期的にリクエスト食や季節毎の調理提供(干し柿、漬物など)楽しんで頂いている。	
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望を考慮しながら、出来る限り本人の希望に沿って地域の行事参加(運動会、学習発表会など)、買物(スーパー)、ドライブ(花見、紅葉等)の外出支援を行っている。	法人内の車を使用しては、思い立った時にドライブに出かけられる。特に春の花見は何度も出掛けている。寿司を食べたいとの利用者の声に早速回転寿司へ、病院受診の帰り道、本人の希望で馴染みの靴屋へ、店員との会話を楽しみに出掛けることもある。冬場は天候の関係で散歩よりはドライブが多いが、近隣の神社までの散歩コースはお気に入りであるとのこと。
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金を所有し好きな物を買ひ、自分で支払いを行っている方もいる。管理能力がない方は、預り金の中から必要分を渡し、買い物を行っている。	
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には電話を掛けてあげたり、取り次ぎ、安心できるようにしている。	
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光、室温、湿度の調整に気を付け、誰もが居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、季節に合ったものを飾り付けや貼り絵などを展示し、季節がわかるようにしている。	今年は雪が極端に少ないが、例年の2月であれば、土手の前の雪の壁に小さなかまくらを沢山作り、夜になるとろうそくを灯して、ホールから幻想的な風景を楽しんでいる。基本的にはスタッフが掃除をし、清潔を保っているが、モップ掛けやテーブル拭きを手伝う利用者も一役かっている。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によってそれぞれの居室でくつろがれたり、リビングでお茶や他者との会話を楽しんだり、場所を強要せず本人の好きなところで、時間を過ごせるようにしている。	
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物などを持ち込み、その人らしい空間を作り落ち着いて暮らせるよう配慮している。	掃き出し窓と居室ドアを開ける廊下からとホームでの生活の様子が感じられるこの2点が開設当初よりのこだわりとのことで、増設や2号館も同様の作りとしている。持ち込みの制限は一切なく、縫いぐるみやTV等々、それぞれの好みの居室を演出している。
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る力を理解すると同時に、トイレ、居室等に案内掲示や表札を貼り混乱や障害がないよう工夫し、不安なく安全に生活できるように配慮している。	